

9月の台風

台風通過時は、作物の傷みによる生育不良と、高温多湿による病害の発生が懸念されます。また、平成14年は塩害も発生しました。適切な対応で、被害を最小限に食い止めましょう。

台風通過中に圃場を見回ることによる死傷者が多いです。圃場や施設の点検・修理は、台風が来る前か、過ぎ去ってからにしましょう。

○：事前対策・●：事後対策

1 作業全般

風雨が強い内は作業しない。台風通過後も、水路や傾斜地では洪水や土砂崩れのおそれがあるため、十分に注意する。

2 野菜

○事前に圃場に明きょや穴を掘り、圃場に滞水しないよう努める。

●滞水した場合は、速やかな排水に努める。また、多湿により病気が発生しやすくなるので、登録に従い殺菌剤を散布する。

●ハウス内やトンネル内の湿度を速やかに下げる。

●茎葉が傷ついた株や泥をかぶった株は、病気（特に軟腐病）が発生しやすくなるので、速やかに殺菌剤（治療剤）を散布する。

●天候が回復し、2回目以降の薬剤散布時に「メリット青」「ポリコープ青」等の窒素入り葉面散布剤を加用し、生育回復に努める。葉面散布は3回程度続ける。

(1) 露地栽培

○アブラナ科作物では、強風で振り回されないよう、ネットや不織布等をべたがけする。なお、べたがけ資材が風で飛ばされないよう注意する。なお、強風が収まった後は速やかに除去する。

●台風通過後は、追肥・中耕・培土により、早めに土壌への酸素供給を行う。

●降雨後に潮が上がった場合は、できるだけ早く大量の散水を行い、茎葉に付着した塩分を洗い流す。

★ネギ

- 倒伏した場合は丁寧に起こし、窒素成分で10aあたり3kg程度の追肥を行う。起こす前に軟腐病の防除を行う（起こした後では株元の防除が不十分になる）。なお、機械を使用した土寄せは極力避ける。
- 葉に薬液が付着しにくいいため、「ニーズ」等の展着剤を混用する。



倒伏を放置すると葉が曲がります

◆発生が予想される病害

- ▼ニンジン：軟腐病・黒葉枯病 等
- ▼ダイコン・キャベツ・ハクサイ：軟腐病・黒斑細菌病 等
- ▼スイカ：褐色腐敗病 等
- ▼ネギ：軟腐病・疫病・白絹病 等
- ▼ショウガ・葉ショウガ：紋枯病 等

(2) 施設栽培（p26～30も参照のこと）

- ハウスに開口部があると風が入って破損するため、密閉できるよう点検し、破損箇所は直ちに補修する。出入り口等は密閉して固定する。
- ハウスの周囲に風で飛ばされる物がないように、周辺を片付ける。
（それらがハウスに穴を開けると、ハウス本体に被害が及ぶため）
- ハウスに下向きの力がかかるよう、パイプハウスの天井の直管や大型ハウスの天窗に重しをつける（土嚢等を吊す）。
- 破損した場合は、速やかに補修を行なう。
- 施設内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後にベットを整形するとともに中耕する。
- トマト類では芯止まり症状が発生しやすくなるため、台風通過前後に「ヨーヒB5」等のホウ素入り葉面散布剤を施用する。
- ハウスを閉め切ることによって以下の病気が発生しやすくなるので、防除基準に従い、台風通過前に殺菌剤（予防剤）を散布する。ただし、散布後乾かないような条件では散布せず、台風通過後に治療剤を散布する。根の活性が低下するなど薬害が発生しやすい状態にあるので注意する。

◆発生が予想される病害

- ▼トマト類：葉かび病・すすかび病・褐色輪紋病・斑点病（ミニトマト）等
- ▼イチゴ：炭疽病 等

3 花卉

- 野菜に準じて対策を行う。
- 支柱の打ち増しやフラワーネットの点検・補強を行う。
- 莖葉の被害によって大きな減収や品質低下が予想される花卉（小菊など）では、防風ネットを展張する。
- 育苗中や定植直後に冠水被害を受け、回復の見込みがない場合は、除去して新たな苗を定植し直すか、再度播種する。
- 風により折れた枝や株は整理する。倒伏した切り花は、枝の曲がらないうちに無理のない範囲で早く立て直し土寄せする。
- 数時間滞水した苗物や鉢物は、その後乾燥気味に管理する。

4 果樹

- 枝が揺すられないよう、棚や支柱にしっかり縛る。
- 棚自体が揺れて落果するのを防ぐため、振れ止めや重しを設置する。
- 収穫を早める。
- 多目的防災網が飛ばされないようチェックし、補強する。
- ナシでは、幹や枝が損傷した場合は胴枯病の発生要因となるので、傷口は塗布剤で保護する。
- 樹が倒伏した場合は無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せして支柱を立てる。
- 降雨後に潮が上がった場合は、できるだけ早く大量の散水を行い、莖葉に付着した塩分を洗い流す。

5 ラッカセイ

- 黒渋病等が発生しやすくなるので、よく観察し、防除を行う。

6 水稲

- 倒伏や冠水による「穂発芽」を防止するため、早急に排水する。
- 倒伏した稲は、早めに収穫するよう努める。滞水期間の長い圃場の稲は、他圃場と区別して収穫・乾燥し、全体の品質を下げないようにする。

高温時の薬剤散布は避けましょう！